

マリファナ・アノニマス12の伝統

1. MA全体の福利が何より優先される。個人の回復はMAの一体性に依存する。
2. グループの目的のため唯一その究極的権威となるものは、グループ全体の良心を通して現れる愛に満ちた神の意志である。リーダーとは任務を委託されたものにすぎず、支配することはない。
3. メンバーになるための唯一の条件は、マリファナを止めたいと願う気持ちだけである。
4. 他のグループやMA全体に影響を及ぼさない限り、グループはそれぞれ自治権を持つ。
5. 各グループの主要目的はただ一つ、今も苦しむアディクトにメッセージを伝えることである。
6. MAグループは関連施設や外部組織に対し、それがどこであれ、推奨したり、融資をしたり、MAの名前を貸したりしてはならない。金銭、所有権、名声などの問題がもとで主要目的から逸脱してはならないからである。
7. MAグループは全て、外部からの寄付は辞退し、完全に自立した存在でなければならない。
8. マリファナ・アノニマスはいつまでも非営利でいるべきではあるが、サービスセンターには専従職員をおくことができる。
9. MA自体は絶対に組織化されてはならないが、グループやメンバーに直接サービスを提供し、その責任を持つ評議会や委員会を設置することはできる。

10. マリファナ・アノニマスは外部の問題に見解を持たずとし、従って、公共の論争でMAの名が引き合いに出されてはならない。
11. MAの広報はプロモーションというよりアトラクションをその活動の基本方針とする。活字、電波、映像の分野で、個人名はいつも伏せておく必要がある。
12. 匿名でいることがMA全伝統に一貫したスピリチュアルな基盤であり、それがため、いつまでも忘れずにいられる — 個人的違いより原理を優先させることを。

1989年10月および1992年5月
マリファナ・アノニマス総合サービスコンフェレンス
承認

コンフェレンス承認文献
© 1998年マリファナ・アノニマス
全著作権所有
P-05 6-98

なぜマリファナ・アノニマスなのか？

Why Marijuana Anonymous?



マリファナ・アノニマス

マリファナ・アディクトのための
12ステップ・プログラム

Marijuana Anonymous
World Service
P.O. BOX 2912
Van Nuys, CA 91404 USA
Toll Free: 1-800-766-6779
<http://www.marijuana-anonymous.org>

コンフェレンス承認文献
P-05

なぜマリファナのために別なプログラムが？

アルコールクス・アノニマスの後に続いた他の多くの12ステップ・プログラムと同様に、マリファナ・アノニマスも最初は「コーヒーポットと恨み」で始まりました。最初のマリファナ・アノニマス・ミーティングを始めたアディクトたちは、他の薬物依存症を対象にしたプログラムでは気軽に自分の問題がシェアできなかったのです。さらに、「君らはシェアできないよ」とミーティングで実際言われたこともありました。そのうち、ソプラエティ（しらふでいること）をある程度維持できた（そして勇気の湧いた）アディクトたちが何人かで本命のドラッグを対象に、時には自宅で、ミーティングをし始めたのです。

アルコールリズムもアディクションも、何が本命のドラッグであろうが、病気であることには変わりませんが、症状が違うということはあるのです。アップになるドラッグもあれば、ダウンになるものもあり、本命のドラッグは、アップ・ダウン、どちらになりたいかということと、何のドラッグに出会ったかによって決まります。

初期のMAメンバーは、マリファナは「底のつき方が浅い」ドラッグということが主な理由で、全てを失った“重量級”の薬物乱用者と共通する部分を見つけるのが容易ではありませんでした。ほかのスピードっぽいドラッグと比べるとマリファナには鎮静効果があるので、極端にハイになるために使っていたアディクトともなかなか共通点を見つけにくかったのです。マリファナ・アディクトはポット（マリファナの俗名）を吸って、大したこともせず、ずっと何もしないでいるという傾向が強いのですが、一般的に、機能もしっかりしているし、何とか仕事も首にならずにいられるというところが、ほかの薬物乱用者とは違っています。

今までの人生にすっかり意気消沈し、一生懸命クリーンになろうとしても、ミーティングに行くと他のアディクトから“軽量級”と呼ばれるのはとてもつらいですし、「本物のアディクションになった時に戻っておいで」と言われても、それでは役に立ちません。マリファナ・アディクトはすでに本物のアディクションになっているのですから。

MAのメンバーはマリファナしかやらなかったアディクトもいれば、できる薬物は全てやり、他のは止められてもマリファナだけは・・・というアディクトもいます。そういう人たちにはマリファナ・アディクションを対象とした特別なミーティング

が必要で、今日は、ポットのアディクションが冗談などではないことをよく承知しているフェローの間に、彼らは安らぎの場を見出しています。

マリファナ・アノニマスはどこで始まったか？

マリファナ・アノニマスは数カ所ですべてほとんど同時進行で始まっていました。これは来たべき時が来たプログラムとも言えますが、当初はマリファナ・アノニマスと呼ばれないミーティングさえ存在していました。カリフォルニア州オレンジ郡にはマリファナ・スモーカーズ・アノニマス、サンフランシスコのベイ・エリアにはマリファナ・アディクト・アノニマス、そしてロサンジェルスとワシントン州シアトルにはマリファナ・アノニマスというグループが一つずつ存在しており、グループは全て1986年、1987年に発足していたのです。

どのように1つのグループにまとまったか？

こういった初期のメンバーが信念を失うことなく、苦労を重ねた結果、MAの一体化が実現しました。旅行や引っ越しで行き来するメンバーを通し、それぞれ違ったグループがお互いのことを耳にし始め、1989年には、機関として一体化するだけ共通したものがあるかを話し合うため、それぞれのエリアからの代表が数人ずつ集まることになりました。オレンジ郡、ロサンジェルス郡、ベイエリアからの代表が選ばれ、(この3グループの中間地点となる)カリフォルニア州モロベイ市で、第一回ユニティ・コンフェレンスが開かれたのです。シアトルのグループには電話での連絡となりました。組織名は、すでにロサンジェルス・グループがその名を法人組織として登録していたので、マリファナ・アノニマスという名前に決定され、マリファナ・アノニマスのいくつかの基本的な概念がその最初のミーティングで合意されることとなりました。

代表の間で、次のミーティングは1989年10月に開催という合意が交わされ、それが第一回総合サービスコンフェレンスと呼ばれることになりました。このミーティングにはカリフォルニアの3つのリージョンからの代表、およびワシントングループからの代表が参加し、ここで、マリファナ・アノニマスのステップと伝統で使われる用語・言いまわしが可決されたのです。

誰がマリファナ・アノニマスを始めたか？

理論的に言えば、ビルW.が始めたこととなります。AAの創始者の一人として、彼は全12ステップ・プログラムの立案者だと言えます。(アディクトがもう一人のアディクトをサポートするには最低2人が必要となりますが)マリファナ・アノニマスの最初のグループは4つともそれぞれ違った人がミーティングを始めていました。MA初期のインスピレーションがどこから来たのかを忘れないよう、MAミーティングのフォーマットには以下のことが書かれてあります：

“マリファナ・アノニマスでは、アルコールクス・アノニマスによって創成された基本的「12ステップによる回復プログラム」を活用しますが、それはこのプログラムに効用があると証明されているからです。”

マリファナ・アディクトとは誰のことか？

“マリファナ・アディクトである私たちには、この質問に対する答えが分かっています。マリファナに人生をコントロールされ、他のことには全く興味をなくし、夢は煙とともに消え去っていきました。このアディクションは進行性の病気で、アルコールも含め他のドラッグ・アディクションになっていくことも良くあります。自分の生活、考え、希望でさえ、マリファナがその中心となり、マリファナを手に入れ、売買し、どうすればずっとハイでいられるか・・・そんなことばかり考えていました。”この引用はマリファナ・アノニマスのミーティング・フォーマットから再録されたものです。